

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 26日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 0174100594 | | |
| 法人名 | 有限会社ふれ愛 | | |
| 事業所名 | グループホームふれ愛 | | |
| 所在地 | 〒085-0036 北海道釧路市若竹町18-18 (電話) 0154-22-7941 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年1月20日 | 評価確定日 | 平成21年3月26日 |

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|----------------------|-------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 7月 26日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 | 12.1人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|---------|--|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | 1~2 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|----------|------------|-----------------|
| 家賃(平均月額) | 31,500 円 | その他の経費(月額) | 12,500~23,000 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,100 円 | |

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 5 名 | 女性 13 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 4 名 |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 4 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 82.3 歳 | 最低 73 歳 | 最高 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 中田内科医院、長内歯科医院 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建物をリフォームした当事業所は、ゆったりと広く、明るい造りで、利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。経営者、ホーム長、リーダー、職員の関係が良く、独自の理念に基づき日々話し合いを重ねながら、より良い介護を目指している。また、町内会、老人クラブ、学校、近隣住民等、地域との関係づくりや連携にも積極的に取り組んでおり、互いの行事に参加する機会をできる限り確保している。さらに、センター方式を活用し、利用者の役割支援、経験を活かす日常的な支援も行っている。重度化の指針を全職員で共有しているとともに、医療関係者、利用者、家族、職員間で随時話し合いながら、看取りも行っている。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、理念への地域との関係性を重視する内容の明示があげられていたが、理念に地域との関係性に言及する一文を加えるとともに、職員間で内容の共有を図っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員がそれぞれ自己評価表に記入しており、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。また、評価結果は、事業所内の誰でも見られる場所に置いている。なお、今回の自己評価では、さらなる地域との関係づくりを今後の重点としている。 |
| | ② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族代表4名、町内会役員4名、地域包括支援センター職員、職員等で構成し、2ヶ月に1度行っている。会議では、利用者の日々の生活や行事、運営状況等の報告をするほか、行政機関の出前講座を活用するなど、研修の機会ともなっている。また、地域住民や家族の意見を得るなど、より関係を深めるとともに、参加できない職員には職員会議で、家族には文書で報告している。 |
| | ③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回、「ふれ愛通信」を発行し、利用者や事業所の様子を家族に知らせている。また、家族の訪問時には、話しやすい雰囲気づくりに努め、意見や苦情を得るよう努めているとともに、意見、苦情等に対しては迅速に対応し、必要な場合は会議等で共有を図っている。さらに、運営推進会議に家族が参加するほか、家族会も開いている。外部の苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記するとともに、事業所内にも掲示している。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会の行事等に参加するなど、地域との交流を大切にしている。町内会は高齢者世帯が多いため、事業所が盆踊り等の行事を開催し、利用者家族と共に地域住民にも参加を呼びかけるよう取り組んでいる。今後も、地域への働きかけを工夫しながら、事業所が持つ認知症の知識や技術を地域に還元することで、さらに地域との交流が深まることが期待される。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設以来の理念に加えて、地域密着型サービスとしての独自の理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 日々のケアの中で理念を具体化するよう、朝の申し送りやケアカンファレンス時に、繰り返し話し合いながら、理念の共有を図っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事等にはできる限り参加するとともに、事業所の盆踊り、カラオケ大会等の行事には、地域住民が参加している。また、地域住民が、けん玉等の昔遊びを行ってくれたり、定期的に事業所に遊びに訪れるなど、交流が深まっている。 | ○ | 運営推進会議等の様々な働きかけを通して、日常的な交流も少しずつ増えているが、今後もさらに交流が深まるよう努力を続ける姿勢であり、今後の取り組みが期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価表には職員全員が記入している。また、外部評価での改善点には速やかに対応し改善に結び付けている。なお、評価結果は事業所内の誰でも見れる場所に掲示するとともに、家族に郵送し、さらには利用予定者の家族にも渡している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を通し、地域住民との交流が増え、行事への参加が得やすくなったり、事業所の農園に対するアドバイスを得るなどしている。また、事業所への理解も深まり、地域住民から避難訓練への参加の申し出があるなど、具体的な取り組みに結び付いている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市担当者には報告を行ったり助言を得るなど、必要に応じて出向き連携を図っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 月1回、事業所や利用者の状況を掲載した「ふれ愛通信」を発行し、家族に送付している。また、受診など利用者には状況変化があった場合はその都度電話で連絡を取っている。金銭出納については、家族の来訪時に確認してもらい、領収書を渡している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪時には、職員は声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議や家族会でも意見を聞き取るようにしている。苦情等を得た場合には、迅速な対応に努め、必要な場合には会議等で職員全員で共有している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動、離職は極力行わないように努めている。また、異動した職員は、日常的に事業所を訪れ、利用者との関係を保つようにしている。新しい職員は、研修期間を設け、早く利用者と馴染みの関係を作るよう努めている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は、積極的に研修に参加している。研修終了後は、報告書を書き会議で報告をするほか、日常的に感想等を話し合うなど、互いに学び合いながら資質の向上を図っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の職員交換研修に参加し、他事業所の良さを学び合っている。懇親会等にも参加し、交流を図っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用に際し、家族からの相談を受けながら、事業所の見学をして雰囲気や様子を見るなど、本人の不安が解消してから利用を開始するよう配慮している。また、状況に応じ、職員が何度か家庭訪問をし、馴染みの関係をつくるなどの配慮もしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 山菜の下処理のしかた、野菜の切り方、米のとぎ方、道具の使い方、野菜の植え方、肥料、間引きのしかたなど、職員は利用者から学びながら、調理や農作業等を一緒に行い、共に支え合う関係づくりに取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を活用し、利用者や家族の話を聞き取りながら、生活歴や趣味、意向等の把握に努めている。また、言葉では訴えられない場合等にも、職員全員で検討をしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者の話を聴き、家族の希望、意向を確めて、センター方式を活用しながら介護計画を作成している。特に職員全員が課題と感じていることを書き出し、それを介護計画に反映している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画を定期的に見直すとともに、対応できない変化が生じた場合には、定期的見直しと同様の手順をとり、職員全員がセンター方式のシートに記入しながら、新たな計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の希望に応じて、理容室、墓参り等、行きたい場所に出かけるなど、多機能性を活かした柔軟な対応をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 全ての利用者が、それぞれのかかりつけ医を受診しており、適切な医療を受けている。また、往診を受ける利用者もいる。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化についての指針があり、家族の同意を得ているとともに、職員全員で共有している。また、重度化、終末期には、家族、本人、医療関係者、職員全員と相談しながら、事業所として必要な支援を行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報、鍵付きのロッカーに入れ保管している。また、利用者、家族から個人情報の取り扱いに関する同意書を得ている。個人の記録等には本人以外の名前を書かないようにしているほか、トイレ誘導や排泄処理等にも、尊厳に配慮した対応を取っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの生活リズムを把握しながら、散歩や買い物等の外出支援をしている。また、居室でゆっくり本や新聞を読みたい等の希望も大切にしながら、孤独にならないための配慮をしており、利用者の意向を大切に、した個別ケアに取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日常会話を通し、利用者一人ひとりの好きな食べ物を把握し、その日に食べたいものを考慮しながら献立づくりをしている。また、準備、後片付けなど、できる限り利用者と職員と一緒にやっている。晩酌を楽しみにしている利用者もいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的に入浴の曜日は決まっているが、利用者の希望に応じており、夜間入浴を行っている利用者もいる。また、入浴剤を入れたり、一緒に歌を歌いながら入浴するなど、入浴が楽しめるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | センター方式を活用し、利用者の得意分野を把握した上で、畑仕事、花壇の手入れ、茶碗拭き、掃除など、その人らしい役割を見つながら支援をしている。また、フォーセンバレー、体操など、日常的に体を動かすことや外出にも力を入れている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 隣設するデイサービスとの行き来、近隣の公園への散歩や買い物をはじめ、天気や気分にあわせ、ドライブ等に出かけたり、弁当を持って車で公園にピクニックに行くなど、できる限り戸外に出かけるよう支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 安全のための夜間の施錠以外、日中は鍵をかけていない。新入職員には、鍵をかけないケアは利用者の尊厳を大切にすることであると説明している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、防災訓練や、防災センターでの救命救急研修等を行っている。運営推進会議を通して、地域住民から避難訓練への参加の申し出を得るなど、協力体制ができつつある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態や好みに応じ、食事量の調整をはじめ、刻み食、おかゆ、必要によってとろみ食等の工夫、肉が食べられない利用者には魚への献立変更など、必要な栄養が摂れるように支援している。水分チェック表があり、排泄や体調との関係も確認できるようにしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間はゆったりと広く、対面式の台所では会話をしながら調理ができる。また、工芸品の家具や、利用者と職員が共につくった季節の飾り、利用者が時折水やりをする鉢植え等を置いている。2階には畳のスペースもあり、くつろげる空間となっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が自宅で使用していた家具を持ち込んでいる。仏壇や御位牌を持参した利用者には、毎日の水あげやお参りの支援をするなど、利用者が居心地よく過ごせるような配慮をしている。 | | |

※ は、重点項目。